



ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 264

2018年

9～10月号

行 事 案 内

9月手賀沼探鳥会

期 日 9月9日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子市役所 午前8時
 (サマータイムです。)
 案 内 秋らしい風があっても、まだまだ残暑が厳しい中での探鳥会になります。手賀沼の水鳥が少しずつ戻りはじめ、農地ではチュウサギやアマサギが見られることでしょう。運が良ければ、早めに渡来したコガモ、シヨウドウツバメやノビタキなど渡りの思わぬ鳥に出会えるかも知れません。暑さ対策と水分補給も忘れずに。
 解 散 11時
 担 当 桑森

10月手賀沼探鳥会

期 日 10月14日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子市役所 午前9時
 (サマータイムから通常時間に戻ります。)
 案 内 モズが騒がしい季節になり、一部のカモは戻って来ているでしょう。常連になったミサゴや、思いがけない出会いにも期待してじっくり観察してみましょう。
 解 散 正午
 担 当 松田

9月、10月手賀沼定点カウント

期 日 9月4日(火) 雨天延期
 10月2日(火) 雨天延期
 集 合 我孫子市役所 午前9時
 解 散 正午予定
 担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮
 連絡先 桑森亮
 Tel : 04-7182-3149

9月、10月ビオトープ調査

期 日 9月6日(木) 雨天延期
 10月4日(木) 雨天延期
 集 合 手賀沼ビオトープ:9月は午前8時30分、10月は午前9時30分
 案 内 9月は留鳥のほかに夏鳥のツバメ、チュウサギが見られ、10月にはチュウサギの他に、冬鳥のコガモが見られるようになります。昨年9月は16種、10月は22種の野鳥を観察しました。アベリア、シモツケ等木の花が咲き、野草では9月にはニラ、アキノノゲシ、ヌスビトハギ等の花が咲き、10月にはセイタカアワダチソウ、オオイヌタデ、キツネノマゴ等の花が咲きます。花の蜜を求めて蝶、蜂等の昆虫が集まり、トンボも飛びます。9月までは蝉も鳴いています。夏から秋への季節の

変化を感じながら探鳥をしてみま
しょう。

参加希望の初めての方は下記まで
ご連絡の上、当日は五本松公園の駐
車場に9月は8時まで、10月は9
時までにお越しください。

解 散 9月：午前10時30分

10月：午前11時30分

担 当 鈴木静治

Tel : 080-3121-4757

三 番 瀬 探 鳥 会 (再掲)

期 日 9月2日(日) 雨天中止

集 合 我孫子駅改札口 7:40 又はふな

ばし三番瀬海浜公園バス停 9:30

交 通 我孫子駅(常磐線快速) 7:52 発～

柏駅 7:56 着、

東武線柏駅(船橋行き) 8:05 発～

東武線船橋駅 8:35 着、

徒歩で京成船橋駅南口前 3 番バス
停へ、

船橋海浜公園行きバス 9:00 発～

終点下車 9:25 着

案 内 恒例になりました千葉県野鳥の会
との交流探鳥会です。

三番瀬は日本一のミヤコドリ渡来
地です。秋の渡りの時期でオオソリ
ハシシギ、チュウシャクシギ、メダ
イチドリなど多くのシギ、チドリ類
が観察できます。ミヤコドリはもち
ろんコアジサシ、アジサシも期待で
きます。

子供さん向けの「プランクトンの観
察」も行う予定です。

持 物 観察用具、弁当、飲み物、ぬれても
よい靴(長靴)、雨具

申 込 野口隆也まで(集合場所と携帯電話
番号をお知らせ下さい)

Tel : 04-7163-7898

担 当 相良直己、野口隆也

我孫子・柏周辺探鳥会

期 日 9月30日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時30分
案 内 我孫子・柏の身近な場所で探鳥す
る昨年から企画された探鳥会で
す。今回は、次の場所を予定して
います。

① 中峠(なかびょう)は、会員の
松本勝英さんが「鳥だより」
に良く報告されている場所
で、猛禽類、キセキレイなど
が期待されます。

② 手賀の丘公園では、秋の渡り
のキビタキ、エゾビタキが期
待できます。また、公園から
染井入落を通り手賀沼湖畔
も探鳥します。

③ 今井の桜並木では、ツツドリ
を探します。

解 散 午後4時頃(予定)
交 通 自家用車分乗です。同乗者は一人
500円を運転者にお渡し下さい。
自家用車を提供可能な方は、申込
時にその旨を連絡願います。

持 物 観察用具、雨具、昼食、飲み物
申 込 千葉洋まで

Tel : 090-2434-4937

担 当 松本勝英、千葉洋、船津登

稲敷探鳥会

期 日 10月7日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前9時
案 内 2年前は台風で中止となった為、秋
のシギチ探鳥会は久し振りの実施
です。10月のシギチは成鳥のほと
んどが冬羽となり、幼鳥もどれも
似た様な地味な個体が多い時期で
すが、多くの目で沢山の鳥達を探し
その違い楽しみましょう。

見られる可能性がある鳥は、オグロ
シギ、エリマキシギ、ツルシギ、ア

カアシギ、ウズラシギなどで、他はチュウサギ、ショウドウツバメなどが期待されます。

交通 自家用車分乗です。同乗者は運転者に一人 1500 円をお渡し下さい。尚、車提供が可能な方は、申し込み時にその旨をご連絡願います。

申込 金子雅幸まで
Tel : 04-7133-6944
担当 松田幸保、金子雅幸

市民のチカラまつり 2018

期 日 9月22日(土) 10:00~15:30
(2F ホールは 11:00~)

9月23日(日) 10:00~15:30

会 場 けやきプラザ 2F ホール他

案 内 「市民のチカラまつり」は、我孫子市の市民活動団体が中心となり、行政・学校・企業・商店など多様な機関と連携しながら実施する街づくり交流イベントです。市民活動団体の活動紹介、体験型イベント、ステージ・パフォーマンス、講演、シンポジウムなど、様々な方法で市民活動が紹介・発表されます。

会場はけやきプラザ 2F ふれあいホールを中心に入口エントランス広場及びアビシルベで、市内の様々な市民活動団体が参加し発表や展示を行います。また、7F 研修室等では講演会・シンポジウム・フォーラムなどが開催されます。

<当会の出展内容等>

当会では、この市民活動イベントに例年参加・出展しており、今回の出展内容は、

- ①当会の活動紹介と探鳥会等で観察した写真のパネル展示
- ②野鳥の写真をプロジェクターで映写し鳥の名前を当てるクイズ「この鳥なーに？」や野鳥ビンゴなどの参加型ゲームを行う予定です。

パネルでは当会の活動状況や野鳥の写真を展示し、楽しいふれあいや探鳥の感動をア

ピールします。鳥の名前当てクイズ「この鳥なーに？」は言わば野鳥観察の疑似体験プログラムで、昨年の初級・中級編から更なるバージョンアップも検討しています。昨年新たに導入した野鳥ビンゴも含めて、参加型ゲームは子供たちに大変人気があります。当会のブースには子供たちがひっきりなしに集まり、身近な野鳥やその環境を楽しみながら学んでもらう良い機会になっており、当会の重要な啓発活動の一つです。

会員の皆さん、是非お立ち寄り下さい。そして、スタッフとして多くの皆さんのご参加・ご協力をお願いします。

<連絡先>事務局 桑森まで

Tel/Fax : 04-7182-3149

ジャパンバードフェスティバル (J B F 2018)

期 日 11月3日(土) 9:30~16:00
4日(日) 9:30~15:00

会 場 手賀沼親水広場、水の館、オオバン広場 (多目的広場駐車場)、アビスタ周辺、その他

案 内 会場は昨年とほぼ同じで、光学機器関係は親水広場、学生・NPO 団体はオオバン広場、講演・作品展はアビスタ、水の館などの予定です。当会の出展は、オオバン広場のテント(予定)、カップ噴水前展望デッキの湖畔バードウォッチングのテント、手賀沼漁協棧橋付近の船上バードウォッチングテントの 3 か所になります。

広 報 JBF 全体のイベントについては、広報あびこの 10 月、11 月号または我孫子市ホームページをご覧ください。

<当会の出展内容等>

- ① 「パネル展示」(オオバン広場テント)
当会の活動状況や手賀沼の水鳥の現状、会員が撮影した野鳥の写真等をパネルにして紹介します。具体的テーマは「我孫子野鳥を守る会の活動と手賀沼の水鳥の現状」とし、展示内容を検討中

です。

- ② 「野鳥の塗り絵とパタパタ工作」(オオバン広場テント)
野鳥の塗り絵とパタパタ工作を親子で楽しんでもらいます。
- ③ 「庭に鳥を呼ぶ」(オオバン広場テント)
野鳥の好きな草木の実や餌を実物で紹介しします。
- ④ 「湖畔バードウォッチング」(カップ噴水前展望デッキとテント)
湖畔の展望デッキから望遠鏡を使用して手賀沼の鳥を見て、楽しんでもらいます。
- ⑤ 「船上バードウォッチング」(手賀沼漁協棧橋付近のテント)
遊覧船で手賀沼を一周し、船上から手賀沼の鳥と風景を楽しんでもらいます。受付や乗船券販売等は水の館 3F で実行委員会事務局が担当し、当会は船内のガイドを担当します。
- ⑥ その他
海外から数か国のブース展示も行われ、当会はこれまで親交を深めている台湾とモンゴルをサポートします。

<前日会場設営と当日参加のお願い>

- ① 当会展出の設営は、前日 11 月 2 日(金)の 13 時 30 分からオオバン広場の当会テントにご参集下さい。その後、各担当の出展場所へ移動し、設営作業を行います。
- ② 11 月 3 日(土) 9 時 00 分～16 時 各出展場所へ
11 月 4 日(日) 9 時 00 分～15 時 各出展場所へ

*会員の皆様の積極的なご参加とご協力をお待ちしています。

9 月役員会案内

日 時 9 月 9 日(日) 13 : 00～15 : 30
場 所 水の館 3F 研修室
議 題 ①市民のチカラまつり 2018 への
出展
②JBF2018 への出展
③会報 265 号掲載予定記事
④報告事項 対外対応状況他
⑤その他 (議題のある場合は桑森
までご連絡ください)

行 事 報 告

6 月手賀沼探鳥会

日 時 2018.6.10 9:00～11:30
曇り やや強い風 20℃

台風が近づいていたため今にも雨が落ちてきそうな空模様でしたが、29 名の方が参加しました。6 月は鳥が少なくなっている上に、風も強く最悪のコンディションです。第 2 機場を出発して、ヒドリ橋に向かって歩き始めたところ湖面にはほとんど鳥の姿がなく水田側のカルガモの親子も草陰に隠れて出てきてくれません。それでもアオサギ、ト

ビ、コブハクチョウ、カルガモ、オオバン、オオヨシキリ、ホオジロなど定番の鳥たちを観ながら歩き、車で移動中ではオオタカ、サシバも観察されました。

お立ち台まで雨が降り出す前にと急いでまわったおかげで、予定外でしたが浅間橋まで足を延ばせました。この時期のお目当てのヨシゴイが入っていて、運が良い数名の方が飛翔する姿を観ることができました。水田で餌を採るサギの見分け方やセッカの声、川の葦の中に作られたオオバンの巣やカイツブリの親子などを観察できました。飛びながら鳴くホトトギスなど、この時期ならではの探

鳥会でした。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、オオバン、ホトトギス、コチドリ、トビ、オオタカ、サシバ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計 29種 番外 カワラバト

<参加者>間野吉幸、野口隆也、小池忠彦、菊地幸雄、菊地昌江、松田幸保、相良直己、マイケル・ノートン、小澤淳宏、西城猛、徳重玲子、小林寿美子、村瀬和則、高波宣子、船津登、千葉洋、松本勝英、石渡成紀、榎本右、類地佑子、岩本二郎、小林博之、野口紀子、渡辺政一、相馬唐代子、西嶋昭生、西嶋みどり (担当) 佐和橋みどり、坂元貴子 計 29名

6月手賀沼定点カウント

調査日時 2018.6.2 9:00~11:40
快晴微風 22℃~24℃

下沼で、チュウサギの小群に混じって華麗なアマサギが1羽確認された。

ヒナを連れたコブハクチョウが3組確認出来たが、何故か夫々ヒナの数が1羽、2羽、4羽と非常に少ないのが気になった。かつては普通に7羽位いた様に思うが。

2か所でホトトギスの鳴き声を楽しめた。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	12	20	32
カルガモ	21	18	39
カイツブリ	2	1	3
カワウ	14	28	42
アマサギ	0	1	1
アオサギ	3	4	7
チュウサギ	1	20	21
オオバン	2	10	12
合計	55	102	157

<調査者>桑森亮、金子雅幸、船津登

6月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2018.6.7 9:30~11:20

曇りのち晴れ 無風 21~25℃

先月抱卵していたコブハクチョウ、ハシボソガラスの子は巣立つ。キジの親子が田で見られた。木の頂で囀るホオジロ、葦原で囀るオオヨシキリの声が目立つ。調査範囲外で鳴くコジュケイ、ホトトギスの声と多くなった木の花に初夏の到来を感じる。田ではキジの他にハシボソガラスが餌探し、その上をカルガモ、カワウ、ツバメが飛ぶ。上空高くトビが滑空する。ビオトープの池にはカルガモが1羽泳ぐのみ。沼岸の葦原にオオヨシキリが囀り、木の頂ではホオジロが囀る。木の茂みにスズメが止まり、シジュウカラが鳴く。その上をカワウ、ツバメ、ダイサギ、ハシボソガラスが飛ぶ。沼ではカイツブリが鳴き、カルガモ、カワウ、アオサギが飛ぶ。コブハクチョウの幼鳥も鳴く。

観察した野鳥 14種 43羽、他に木の花 11種、実 2種、野草の花 15種、花穂 7種、蝶 6種、蛾 3種、トンボ 2種、バッタ 3種、カマキリ 1種、蟻 1種、甲虫 4種、ハエ 3種、カメムシ 2種、蜘蛛 3種、蛙 3種、亀 1種を観察しました。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、トビ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、オオヨシキリ、スズメ、ホオジロ 計 14種。

<調査者>鈴木静治、池田日出男、間野吉幸、金子雅幸、古出洋子、千葉洋 計 6名

7月手賀沼探鳥会

日時 2018.7.8 8:00~11:00

曇り 微風 29℃

少し蒸し暑いが微風がありこの時期としてはまあまあの探鳥会です。サマータイムで朝8時から探鳥開始です。

いつもなら湖面に鳥影を探すことが多いが、この時期湖面にはほとんど鳥影がないため、多くの人は遊歩道反対側の田んぼに目を向

けながら歩きました。オオヨシキリ、ホオジロがさっそく姿を見せてくれました。ツバメの幼鳥が親から餌をもらう姿はこの時期ならのもので、多くの人が足を止め、カメラを持っている人はかなり近くまで寄り写真を撮っていました。幸いコブハクチョウ、カイツブリも子連れの姿を観ることが出来ました。最後に足を延ばした浅間橋ではお目当てのヨシゴイが出てくれ、気持ちよく探鳥会を終えることが出来ました。

外来植物ナガエツルノゲイトウがかなり勢力を拡大してきました。ついには湖面中央にあたかも島が誕生したごとく群落を作っていたのには驚かされました。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計 29種 番外 コジュケイ、カワラバト

<参加者>坂元貴子、間野吉幸、嶋崎省、落合聡、畠中暁美、渋谷武子、浅野利幸、新堀正則、新堀暖人、久松典子、斎藤恵美子、小林博之、徳重玲子、野口紀子、岩本二郎、古出洋子、渡邊俊文、桑森亮、常盤孝義、西嶋昭生、石井俊子、船津登、西城猛、佐和橋みどり、相馬唐代子、金子幸子、松田幸保、鍋倉妙子、松本勝英、関口英治、佐藤弘美、高波宣子、相良直己 (担当)小澤淳宏 計 34名

7月手賀沼定点カウント

調査日時 2018.7.3 9:00~12:00
 晴れ 風やや強し 29℃~33℃

7月は例年数が最も少ない月であるが、今年も例外ではなく3桁に乗らない結果となった。

ヒナ幼鳥を連れた可愛い姿が幾度か見られ、コブハクチョウでは手賀沼公園で2羽、下沼で3羽、噴水前で7羽が、カルガモで

は手賀沼公園で5羽、上沼で7羽が幼鳥であった。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	4	17	21
カルガモ	9	2	11
カイツブリ	1	8	9
カワウ	25	14	39
アオサギ	0	3	3
ダイサギ	0	1	1
チュウサギ	0	4	4
合計	39	49	88

<調査者>桑森亮、船津登、金子雅幸

7月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2018.7.12 8:30~10:30
 曇り 無風 25~27℃

前日夜半の雷雨が止み、天気回復。沼中は殆ど鳥の姿見えず、沼岸でオオヨシキリ、カイツブリが鳴き、カワウ、ダイサギが飛び、コブハクチョウの親子が泳ぐ。ビオトープの池はカイツブリが、葦原では多くのオオヨシキリが見られ、ホオジロが木の頂で、シジュウカラが電線に止まり囀る。スズメ、ツバメが飛ぶ。上空高く鳴きながら滑空する2羽のトビが見られた。水田ではアオサギ、ダイサギ、ハシボソガラス、キジが畦・草むらで見られ、その上をツバメ、ホオジロ、カワウが飛ぶ。

観察した野鳥は14種50羽。他に木の花7種、実2種、野草の花23種、花穂、種子9種、蝶7種、トンボ3種、蝉1種、バッタ5種、蜂、蟻4種、甲虫4種、蠅2種、カメムシ6種、蜘蛛6種、蛙3種を観察しました。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、トビ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ツバメ、オオヨシキリ、スズメ、ホオジロ、カワラバト 計14種

<調査者>鈴木静治、池田日出男、間野吉幸、古出洋子、嶋崎省 計5名

台湾探鳥会

6月18日～22日

～初めての海外探鳥会に参加して～

坂元貴子

6月18日朝5時30分、大きな荷物と大きな期待を持って、会長さん他数人の会員の方々と我孫子駅ホームに集まり出発しました。私にとっては、この時点から探鳥会の始まりです。我孫子野鳥を守る会に入会して1年半、多くの方々に過去5回の台湾探鳥会についてお話を伺う度に、行ってみたいという思いが強くなっていった為、半年以上前よりこの日が来るのを心待ちにしていました。

桃園空港に着いた途端、空はどんより曇り空です。6月の台湾は例年ならば台風シーズンも過ぎ天候が安定する季節に入っているはずでしたが、今年はまだ台風が居座っていた為、天候が不安定でした。林さんご夫妻とガイドの林雲児さんの歓迎を受け、早々に今日の探鳥ルートの変更を説明されました。台北植物園をキャンセルし、直接宜蘭に行きヤイロチョウを見に行くことになりました。この時期は台北植物園には鳥が少ない為、1回でも多くヤイロチョウを見られるようにと林さんご夫妻が考えて下さったのです。

宜蘭に着く頃には雨足もかなり強くなっており、雨合羽を着てヤイロチョウの営巣している龍泉瀑布に行きました。先に観察していた現地の方が、大勢でやってきた私達に嫌な顔もせず、1時間くらい前に餌場に現れたのでそろそろやって来るのではないかと親切に教えてくれました。1時間弱待っていると、突然フィフィー フィフィーと声がしてヤイロチョウが飛んで来ました。餌場のすぐ上の枝に止まり、人が多いのも気にせず降りて来ました。図鑑で何度も見ていたヤイロチョウは想像以上に色鮮やかで可愛い鳥でした。ミミズらしきものをくわえるとまた何処かへ飛んで行ってしまいました。そんなに長い時間ではなかったのですが、双眼鏡を覗いていた私にはとても長い時間だったような気がしました。その時カメラを持っていなかったことがとても残念でした。

翌朝、林さんがもう一度ヤイロチョウの営巣地に寄ってから大雪山に行きましょと

言ってくださったので、今回はカメラもしっかり用意して昨日の所に行くと、直ぐに二羽のヤイロチョウが飛んできて、まるでポーズをとるように私たちの目の前で餌をついばみ始めました。シャッターの音だけがする緊張した長い時間でした。昨日より長い時間居てくれたので、初心者の私でも写真におさめることができました。

ヤイロチョウに後ろ髪を引かれる思いで大雪山に出発しましたが、途中雨のため道路が通行止めになり辿り着けず、急遽予定を変更して東勢林場遊楽区に宿を取ってもらいました。そこでも朝、宿の周りを散歩していてベニサンショウクイ、ゴシキドリ、テッケイなど台湾固有の鳥を見ることが出来ました。

3日目は運の良い事に通行止めが解除になり大雪山に登ることができました。今回のもうひとつ目的のミカドキジを求めて、ポイント近くでバスを降り待っていましたが見ることはできませんでした。がっかりしてバスに戻ると、そこにサンケイのメスが3~4羽のひなを連れて餌をつついていました。ところが、それはひなではなくミヤマテッケイというとても珍しい台湾固有の鳥でした。人が近づくと、じっと動かず、みんなかなり近くで写真を撮ることができました。人に囲まれ固まってしまったミヤマテッケイが少しかわいそうな気がしました。

この他にもヤマムスメ、ルリチョウ、ヒメマルハシ、ノドジロガビチョウなどたくさんの台湾固有の鳥を見ることができました。あつという間の5日間でしたが、頭の中に多くの鳥の姿を残すことができました。

今回の探鳥会で大変お世話になった間野会長、林さんご夫妻、ガイドの林雲児さん、そして同行して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

～雨の日の幸せな物語～

弘實和昭

6月18日、午前7時に成田空港に集合した。乗客はまばらで、先頭を切って手続きを終え搭乗ゲート前で出発時刻を待つ。待合に備え付けてあるテレビが、大阪北部の地震を伝えている。震度6弱、死者も出ているという。何という旅立ちなのか。天気は雨、梅

雨前線が台湾から日本へと横たわっている。その線に沿って小さな台風が北上して日本に近づいていた。

桃園空港で乗り込んだバスは、台北市の象徴となっている高層ビルのタイペイ 101 を左に見ながら走っている。ガイドの林さんが作ってくれた肉チマキが配られた。中国の家庭料理の一つ、何とも美味。

行き先は太平洋に面した宜蘭市。ヤイロチョウを見ようというのである。この鳥、普段はボルネオなど熱帯雨林に住み、この時期北上し子育てをする。日本でも高知県などに飛来し、県の鳥に指定されている。

ヤイロチョウの子育てポイントには、すでに現地のボランティアの人が数人いて保護活動をしていた。彼らの話を聞いて、待つこと1時間ほど。見事に現れたその鳥は、熱帯にすむ鳥特有の派手な色彩で、人を恐れず至近距離に近づいても目をくりくり回すだけで逃げる気配がない。子育てのために必要なミミズを一途についばんでいる。この鳥を見るためにはるばる日本からやって来たのだ。雨などに負けるわけにはいかない。

再びバスに乗った。全員が乗車すると、「大変なことが起きてしまいました。」会長が緊張した顔で立ち上がった。

「豪雨のため大雪山へ行く林道が崩れ、通行止めになっています。」

そのため、今日予定していた目的地「大雪山国家森林遊楽区」へ行けないのである。仕方がない、行き先を「東勢林場遊楽区」へ急遽変更すると説明があった。

この時期の台湾は梅雨の終わりのはずであるが、今年はまだ明けていなかった。晴れていたかと思うと突然急激な強い雨がザーと降ってくる。九州の梅雨もこんな感じだが、関東の梅雨のシトシト雨とはまるで違っている。

「東勢林場遊楽区」の遊歩道に沿ってあずま屋が沢山あり、雨足が強い中、この屋根の下にもぐり込んでの探鳥となった。しかし、なかなか鳥は来ない。すると、劉さん（林夫人）が太極拳を始めた。その姿は美しく、ゆっくりとした動き、見事に決まる型。太極拳の効能は「筋力の柔軟性の向上、安定した運動による睡眠の深化、身体バランスの強化と転倒リスクの低下」などと言われている。高

齢者の健康法にぴったりではないか。



劉さんの太極拳

話を戻す。

20日、通行止めだった林道が開通した。幸い大きな崖崩れではなかったようである。梨畑が続く林道を通り、崩れた事故現場の脇をすり抜けてバスは登った。そして、昨日行くはずだった目的地「大雪山国家森林遊楽区」へとたどり着いた。

ここでミカドキジを撮るのが第二弾の目的である。台湾では固有種の大キジの仲間が3種生息しており、コジュケイに似たミヤマテッケイと鶏の雰囲気を持つサンケイ、そして優雅なミカドキジである。

21日は雨が上がり、ミカドキジのポイントへ向かう。待つこと暫し、なんとミヤマテッケイが出た。6羽、群れでの出現である。

ミヤマテッケイは、警戒心が強くて遭遇することすら非常に難しい鳥である。探鳥のベテランで台湾へも何度来ているバーダーたちですら、出現した目の前の鳥が何であるかすぐには分からなかった。図鑑を開き確認して「ミヤマテッケイだ！」と叫ぶ声。目の色が変わる。カシャカシャと連射の音が響く。一体何枚写真を撮っているのだろうか、数百枚……。言い様のない自然との出会い、そして興奮。



ミヤマテッケイ

22日は帰国の日、昼には桃園空港に戻ら

～ほーほーどりをたっぷり観察～

嶋崎省

梅雨の真っ直中、天気心配されたところですが、集合時の我孫子駅では曇天、目的地に向け出発です。本日の探鳥地は、北印旛沼、坂田ヶ池総合公園、佐倉市にある国立歴史民俗博物館の周辺森林の3箇所。

北印旛沼では、前方はヨシ原が広がり、後方は水田地帯となる土手に立ち、雨の中、探鳥。ベテラン会員皆様の目的は、サンカノゴイ。稲穂からときどき頭を出す姿やあぜ道を移動する姿が見られる等の情報を元に、必死に双眼鏡で探しましたが見つからず。結局、ウシガエルに似たような「ウッ、ブォー、ブォー」の鳴き声が聞こえたとの話で、残念ながら、あの異様な体形と色彩は見られませんでした。それでも初心者の私にとっては、ヨシゴイ、オオヨシキリの姿や鳴き声を十分堪能することができました。

坂田ヶ池総合公園は、房総風土記の丘に隣接する池と森林からなる比較的整備された公園です。サンコウチョウが主目的でしたが、残念ながら姿、鳴き声は確認できませんでした。一方で、ホトトギスが良く鳴いており、ウグイスの鳴き声も聞こえる中、小雨に濡れながら、両者の切ない関係に思いを馳せました。

博物館への進入路付近の森林では、まず、サギの混合コロニーが見られました。アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギが樹上に営巣している姿が多く見られました。コロニーというものを初めて見ましたが、狭い樹上空間に群れている様子はなかなか壮観です。ただ、民家も隣接しており、騒音やふん害で大いに迷惑をかけているのだろうと懸念もされます。

最後にアオバズク、当会のキャラクターです。サービス精神旺盛でケヤキの大木の梢にじっと止まっており、私たち観察者を大いに楽しませてくれました。しかし、後で考えてみると、営巣箇所が近くにあり、私たちをじっと警戒していたのかもしれない。人間って勝手ですね。

なければならぬ。

最後の目標はヤマムスメ。この鳥も台湾固有種である。カラスの仲間なのだが、オレンジの嘴、非常に長い派手な尾羽に白と黒の横縞が入り、背中では青みを帯びている。なるほど娘と言われるだけあって、おしゃれな鳥である。ダム湖に沿って整備された公園で出会うことが出来た。

探鳥の喜びとは、歩いて鳥を見つけ、写真に収めることと言ってよさそうである。撮影のたびに野生の鳥の生命力に触れ、自然の力を感じ取ることができる。台湾はとにかく野鳥の密度が濃いのが特徴で、島国のため固有種も多い。ここはバーダーにとっては天国、雨の日でも十分幸せにしてくれる。

【幹事報告】

<参加者> 大久保陸夫、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、古賀道子、坂元貴子、相良直己、鈴木静治、相馬唐代子、高波宜子、田中功、多葉田五男、弘實和昭、松本勝英、間野吉幸、渡邊俊文 計 16名

<認めた鳥> ミヤマテッケイ、テッケイ、サンケイ、ズグロミゾゴイ、ゴイサギ、コサギ、アマサギ、チュウサギ、アオサギ、ダイサギ、カンムリワシ、バン、キジバト、カノコバト、ベニバト、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、バンケン、アマツバメ、ヒメアマツバメ、セグロコゲラ、ゴシキドリ、ヤイロチョウ、ベニサンショウクイ、オウチュウ、ヒメオウチュウ、ヤマムスメ、タイワンオナガ、カササギ、ハシブトガラス、イワツバメ、ツバメ、カワガラス、カヤノボリ、シロガシラ、クロヒヨドリ、コシジロムシクイ、マミハウチワドリ、カンムリチメドリ、メジロ、ヒメマルハシ、マルハシ、メジロチメドリ、ヤブドリ、ノドジロガビチョウ、タケドリ、ガビチョウ、ミミジロチメドリ、ズアカエナガ、タイワンシジュウカラ、ヤマガラ、キバラシジュウカラ、チャバラオオルリ、コンヒタキ、カワビタキ、ルリチョウ、ハッカチョウ、インドハッカ、ハクセキレイ、スズメ 計 61種
番外 カワラバト

(アンダーラインは台湾固有種です。14種)
(松本勝英)

【幹事報告】

梅雨真っ盛りで小雨降る中、サンカノゴイに会うために印旛沼に向かいました。到着後すぐに雨が少しずつ強くなり心配しましたがどなたからも「中止希望」の言葉は出ず、飛び交うオオヨシキリやヨシゴイを見ながらサンカノゴイを待ちました。残念ながらサンカノゴイの姿は見られませんでした。ネットを見ると皆さん何時間も待ってやっとサンカノゴイに会っているので簡単には見られないものだとなつきました。その後次の坂田ヶ池総合公園に向かいました。雨が強くなる中またまた誰一人反対せず歩き始め坂田ヶ池のほとりの林を気持ちよく散歩時々探鳥したあと昼食としました。狙いはサンコウチョウ、キビタキでしたが、どちらも今年は他の避暑地にお出かけのようでまた来年以降のお楽しみにさせて頂きました。最後に佐倉の歴史民俗博物館でサギのコロニーとアオバズクを堪能し鳥合わせしているところにオオタカがツミにモビングされて上空を通過。いきなり本日の確認種数 2 種追加となりました。

<認めた鳥>キジ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、サンカノゴイ、コアジサシ、ミサゴ、ツミ、オオタカ、ノスリ、アオバズク、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、セッカ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計 33 種 番外 アイガモ、カワラバト

<参加者>石井俊子、石渡成紀、落合聡、金子幸子、金子雅幸、桑森亮、古賀嗣朗、小山雄司、坂元貴子、坂元孝行、相良直己、嶋崎省、関口英治、関口優香、高波宣子、千葉洋、野尻清敬、野尻恭子、マイケル・ノートン、間野吉幸、吉田隆行、渡辺政一

(幹事) 船津登、村井みとい 計 24 名

新入会員オリエンテーション

6 月 16 日

6 月 16 日に水の館 3 階研修室にて、2017 年度に入会された会員の方を対象に「新入会員オリエンテーション」が開催されました。21 名の対象者の内 15 名の参加があり、当会の活動への理解を深め、今後の活動参加に胸を膨らませていました。

定刻 13:30 前に三々五々集まった参加者は、世界の美しい鳥のスライドショーに目を瞠りながら、開会を待ちます。

定刻となり、間野会長の歓迎の挨拶から始まり、当会のミッション、当会の運営体制の紹介がありました。

次いで担当の相良幹事より、当会のすばらしさ、探鳥会/探鳥のマナーなどを含め、当会の紹介が下記内容で行われました。

- ① 当会の他では得られない特徴及び楽しみ
- ② 当会の名人たち
- ③ 当会の年間活動
- ④ これまでの探鳥地と出会った鳥たち
- ⑤ こんな時のコンタクト先

船津副会長からは、『先達に聴く 探鳥の楽しみとヒント』と題して

- ①探鳥の仕方
- ②探鳥の楽しみ方
- ③手賀沼周辺で見られた珍しい鳥

の紹介がありました。

手賀沼周辺で見られた珍しい鳥では、手賀沼周辺の探鳥地と、①アカエリヒレアシシギ、②コグンカンドリ、③アカガシラサギ、④タマシギ、⑤ミヤマホオジロ、⑥サンコウチョウ、⑦ツバメチドリの 7 種が写真や動画を用いて紹介されました。

また、船津副会長ご自身が毎週月曜日に手賀の丘公園を探鳥されている 4 年間にわたる探鳥記録のご披露もあり、私たちの地元である手賀沼周辺でも、毎年 100 種前後の野鳥を観ることができ、このような珍しい鳥にも出会えることに、参加者一同、関心を新たにされていました。

桑森事務局長から今後の行事予定に関して、詳しい紹介があった後、参加者からの質疑応答になり、活発な質疑が行われました。

その後、新入会員の自己紹介が行われ、和やかな内に船津副会長の閉会の挨拶を迎えました。

新入会員には、当会の具体的紹介や、当会の記録、当会作成スライドショー、探鳥ツール等満載の特製DVDが配付され16:30に散会しました。

<参加者>

【新入会員】阿部真弓、岩本二郎、落合聡、佐藤さなえ、嶋崎省、関口英治、関口久美、相馬唐代子、鍋倉妙子、野尻清敬、野尻恭子、マイケル・ノートン、松崎英一、松崎恭子、宮本秀樹

【既会員】間野吉幸、古出洋子、船津登、桑森亮、野口紀子、相良直己、肥後邦彦 合計22名

<担当幹事>船津登、野口紀子、相良直己

映 写 会

7 月 15 日

本年度の映写会が、47名の参加を得て、下記のごとく、成功裏に開催されました。

記

日 時 7月15日(日) 9:00~13:00

会 場 水の館3階研修室

今年度も、14名の発表者に写真、動画、スライドショーの力作をご披露いただきました。

間野会長の開会挨拶の後、担当幹事石渡さんの司会進行の下で、会員の力作・傑作の数々が順を追って発表されました。例年同様、各発表者から撮影時の秘話や解説もあり、素晴らしい感動的な作品の数々に時間も忘れ、堪能することができました。番外編として、今年度の台湾探鳥旅行時に案内人兼通訳としてお世話いただいた林雲児さん撮影の写真がスライドショーに編集され、前後半の発表の間に紹介されました。発表者の皆様、素晴らしい作品の数々と、効率的な進行にご協力いただきありがとうございました。

定刻通りに船津副会長のご挨拶で閉会し、感動の余韻に浸りながら、懇親会の会場へと移動しました。

発表者と発表タイトルは下記の通りです。

(敬称略、名前の後の()内は写真の枚数)

- 1: 中西榮子 (40枚) [水辺の鳥の思い出]
 - 2: 田中功 (33枚) [今年前半に出会えた鳥達の思い出]
 - 3: 渡邊俊文 (40枚) [Family]
 - 4: 池田日出男 (スライドショー) [南西諸島の鳥達]
 - 5: 吉田隆行 (40枚) [2018年上半期思い出の鳥]
 - 6: 野口隆也 (29枚) [今年出逢った素晴らしい鳥]
 - 7: 松田幸保 (動画) [アトリの大群]
 - 8: 特別発表(番外) (スライドショー) [台湾探鳥旅行記]
- 今年6月の台湾探鳥旅行時に現地案内人林雲児さんが撮影した写真のスライドショー
- 9: 岩本二郎 (47枚) [都市鳥は本当に面白くないのか?]
 - 10: 浅野利幸 (40枚) [これからも会いたい鳥たち]
 - 11: 仲澤成二 (40枚) [思い出2018]
 - 12: 百瀬喬 (動画) [手賀沼周辺の常連の鳥と久しぶりに出会った鳥]
 - ①「手賀沼公園にやってきたオバシギ幼羽」
 - ②「染井入落のツルシギ」
 - ③「羽繕いするヒシクイ」
 - ④「タマシギの採食」
 - ⑤「手賀沼畔で採食中のヒクイナ」
 - ⑥「片山新田のウズラシギ」
 - ⑦「カイツブリの親子」
 - 13: 桑森亮 (41枚) [モンゴルの野鳥と小動物]
 - 14: 古賀嗣郎 (40枚) [台湾撮影の鳥]
 - 15: 多葉田五男 (40枚) [「BATAの身近な自然」野鳥編3]

台湾、モンゴル、タイなどで撮影された美しい鳥、手賀沼周辺で観察された珍しい鳥、探鳥会で出会い記憶に残る鳥など会員の皆様の素晴らしい野鳥の写真が今年も数多く発表されました。

今年度は、初めて岩本二郎さんが発表者として加わり、美しい鳥、珍しい鳥のみではなく、私たちの身近な都市鳥をテーマにした作品を発表され、注目されました。

また、松田さん、百瀬さんには今年も動画の発表をいただきました。特に数万羽のアトリが群舞する松田さんの動画は壮観であり、来場者を魅了しました。

今年も発表者からは事前に作品をお預かりし、予めスライドショーに編集した上で、発表をいただきました。この結果時間通りの効率的な運営もでき、作品の見栄えも素晴らしく大変好評でした。

なお、動画、スライドショーを除く、発表作品は、当会ホームページ、” 映写会写真集 ” に掲載されます。当日、ご参加いただけなかった皆さんは、ホームページ上でお楽しみください。

また、今年度末に作成される 2018 年度当会活動の記録 DVD には、掲載にご同意いただいた動画、スライドショーを含む全作品が掲載されます。

<参加者> 浅野利幸、阿部修三、阿部真弓、天野睦子、池田日出男、石井俊子、石渡成紀、岩本二郎、金子幸子、金子智恵子、金子雅幸、菊地幸雄、菊地昌江、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、小玉信子、小玉文夫、小林千恵子、小林博之、小山雄司、斉藤恵美子、坂元貴子、相良直己、佐藤弘美、佐和橋みどり、渋谷武子、嶋崎省、関口英治、関口久美、芹澤正子、田中功、多葉田五男、常盤孝義、仲澤成二、中西榮子、西嶋昭生、野口隆也、野口紀子、野尻清隆、肥後邦彦、船津登、松田幸保、松本勝英、間野吉幸、吉田隆行、渡邊俊文 計 47 名

<担当幹事> 石渡成紀、相良直己

懇 親 会

7 月 15 日

例年の通り、午前中の映写会の後、懇親会を実施いたしました。

日 時 7 月 15 日(土) 13:30~15:40

場 所 我孫子市若松 94-2

どん亭手賀沼店 04-7191-3108

会 費 2,000 円

出席者 39 名 (男性 26 名 女性 13 名)

内 容

食事、歓談を約 1 時間した後、予め鳥カードにより決定したチーム対抗の

<鳥の鳴き声クイズ>を岩本二郎さんに出題して頂きました。7 問の出題の結果により順位を決定、それぞれに賞品を出しました。

鳥の鳴き声はなかなか難しかったようで、今回のゲームにより良い刺激となり今後鳴き声にも大いに関心が向くことを期待しております。

ちなみに、岩本さんはこれまでに新潟県など、そして千葉県我孫子市における勤務を経て、合計 103 種の鳥の鳴き声をご自分で集めてこられました。

(報告 古出洋子)

ホタルの夕べ

8 月 5 日

日 時 8 月 5 日(日) 19:00~20:20

観察場所 岡発戸谷津 (主にホタル・アカガエルの里付近)

参加者【当会会員】渡邊俊文、坂元孝行、坂元貴子、鍋倉妙子、松田幸保、佐藤さなえ、畠中暁美、佐和橋みどり、阿部修三、阿部真弓、青木典子 (担当: 木村稔、桑森亮)、計 13 名 (うち鳥博友の会とのダブル会員が 7 名)【鳥博友の会だけの会員】9 名【一般の方々】5 名 合計 27 名

報 告

毎年夏の恒例行事である「ホタルの夕べ」を当会と鳥の博物館友の会の共催で行いました。

当日認められたヘイケボタルの数は 100 頭余と去年とほぼ同じで、何とか今年も 100 頭超となりました。

午後 7 時までに集合し、谷津ミュージアムの会長でもある木村さんから谷津の保全状況やホタルのことをお話いただき、観察会をスタートしました。15 分程歩くと谷津に入り、しばらく歩くと先ずは夜にレースのような花を咲かせるカラスウリを観察します。その後ホタルの棲息域の湿地になるとホタルが見え隠れしはじめ、ライトを消して暗闇に目を凝らします。最初はポツリポツリと仄かな光りが飛び交いますが、棲息が集中する湿地域に入ると突然その数が増えてきます。ホタル・アカガエルの里付近の水辺にも

ホテルが乱舞しはじめると、参加者の皆さんは久しぶりのホテルだとか、子供たちは仄かな光りに手を差し出したりと、それぞれ幻想的な光りと癒しのひと時に浸ります。

一昨年、昨年、今年と環境の変化でホテルの棲息場所や棲息数も少し変わるようですが、それでも何とか3桁のホテルが観察され、これで10年連続3桁となりました。こうした貴重なホテルの棲息地が身近にあるのは、日ごろから谷津の保全・整備をされている谷津ミュージアムの会などボランティアの方々のご尽力のお蔭であり、この場を借りてお礼申し上げます。

今年も我孫子市以外から7名の方々が参加されており、我孫子近隣のホテルの棲息地に限られるようです。この岡発戸谷津が今後も持続的に保全されることを願い報告とします。

(報告：桑森亮)

7月役員会報告

日時 7月8日(日) 13:00~17:00

場所 水の館 3F 研修室

議事

1. 市民のチカラまつり 2018 への出展

事務局の提案資料に基づき検討し、大綱を決定しました。出展内容はほぼ昨年と同様で、参加型企画の「野鳥の名前当てクイズ」のバージョンアップ版を検討することにしました。詳細は、別途記載の行事案内をご覧ください。

2. JBF2018 への出展

事務局の提案資料に基づき検討し、出展内容の骨格と役員の分担体制を決定しました。具体的内容は今後担当ベースで検討し、最終決定します。詳細は、別途記載の行事案内をご覧ください。

3. ほーほーどり 264 号掲載予定記事

会報 264 号の掲載記事について検討し、執筆担当等を決定しました。

4. 平成 30 年度第 1 四半期会計報告

会計担当が資料に基づき報告し、異議なく了承されました。

5. 遠出探鳥会が中止となった際の下見費用等の取扱い

前回役員会からの持ち越し検討課題であり、事務局の提案資料に基づき検討し、原案を原則とすることで承認されました。具体的取扱いについては、別途記載の「お知らせ」をご覧ください。

6. 報告事項

①新入会員オリエンテーション実施結果

②手賀沼定例探鳥会での安全ベストの紹介、検討

担当幹事に代わり、事務局から市販安全ベストのサンプルを紹介し、その導入を検討しました。その結果、ベスト導入は見送り、当面は腕章を着用することとしました。なお、腕章は在庫がほとんどないため、追加購入します。

③対外活動報告 (美手連関係、JBF2018 関係等)

④事務局報告事項

以上

寄稿

ハヤブサの狩り(舩倉島での観察)

鈴木静治

2018.5/15-21 能登半島の輪島沖 50km に浮かぶ舩倉島に滞在しました。毎日珍しい鳥を一日中、見られて楽しい「バードウィーク」でした。今年はブッポウソウとハヤブサが連日みられました。今回はハヤブサの狩りを目の前で目撃しましたのでその様子を書いてみます。初日ハヤブサ 2 羽が島から海の方に飛んで行くのを見ました。他に 1 羽の胸から腹に黒褐色の縦斑の幼鳥が島の岩礁、電波塔、灯台に止まっているのが見られました。初日、恵比寿神社横の板状節理の岩の上でムクドリ大の鳥を捕えて食べようとしているハヤブサの幼鳥を見かけました。ハヤブサの前をハクセキレイが飛んでいました。翌日の夕方、恵比寿神社横の電柱を見ますとハヤブサの幼鳥が止まっていた。また止まっているよと思いながら、同行

4名(田中功さん、池田さん、多葉田さん)が少しずつ近づき、最終的には電柱より**5m**位にまで近づきました。しかし警戒する様子もなく止まっています。一度羽ばたきしましたが、飛びません。ところが急に羽を広げ我々の頭上を高速で飛び立ちました。一瞬、襲われたと思ったほどです。しかし次の瞬間、キィキィという甲高い悲鳴が聞こえました。いったい何が起ったのかわかりませんでした。ハヤブサは何処に行ったかと周りを見渡しますと岩の上にあります。脚には小鳥を捕えています。キィキィとの鳴き声にネズミを捕えたかと思いましたが、小鳥でした。よく見ると、頭は灰青色、過眼線は黒く、背と尾は赤褐色の前日、林の中で見たチゴモズでした。高い草に止まっているところか、飛んでいるところを電柱の上から見ていたハヤブサに捕ったようです。はじめ岩の上で食べようとしていましたが、上空をウミネコが、通過するので獲物を横取りされると思ったのか、我々から**7-8m**の先ほどいた近くの電柱上に止まり脚の爪でチゴモズを抑えて嘴で綿毛を、羽根をむしり始めました。そして本体を食べ始め暫くすると、ハヤブサの脚元には何も残っていませんでした。骨まで一緒に食べてしまったようです。捕えて食べ終わるまで**5分**くらいです。ハヤブサは重さ約**1kg**、**30g**のチゴモズを食べ終わると腹が膨れ(**50kg**人なら**1.5kg**の骨付き肉に相当)満足したようにすぐに飛び立ちました。ハヤブサ、チゴモズ共に「レッドデータブック」の絶滅危惧Ⅱ類種のためショックな出来事でした。しかし冷静に考えますと、この島には春と秋の渡りの時期に珍しい鳥が多く現れるのでこのようなことは常に起こっているのではないのでしょうか。以前NHKのワイルドライフで秋、ヨーロッパから地中海を越えアフリカに渡る小鳥を小さな島々の断崖や洋上で襲うエレノオラハヤブサ**3万羽**が**600万羽**の小鳥を捕食(渡り鳥の**0.1%**)すると言っていたのを思い出しました。なおハヤブサが飛ぶ鳥を捕える瞬間は見ても速すぎて(短距離では数百**km/時**)見ることが出来ません。以前、手賀川上空を双眼鏡で上空をタカが飛ぶのを観察していると、**2羽**のムクドリ大の鳥と交差した瞬間、タカが滑空から羽ばたきが変わっていました。脚に鳥を掴んで飛んでいます。高压線鉄塔の上部の平な場所まで羽ばたきながら持って行き羽をむしり始めました。よく見るとハヤブサでした。図鑑の説明ではハヤブサは上から急降下し脚で蹴落として捕えると書いてありますが、あまりに速く蹴落とし、フライイングキャッチは見る事が出来ませんでした。

鳥 だ よ り

手賀沼近辺は**6**月中に梅雨が明け、西日本豪雨後の**7**月後半は**40**度近いとんでもない猛暑が続きました。この激暑の中、ホトトギスやカッコウなど夏の鳥の声が賑やかに楽しませてくれています。

サンコウチョウが現れました。水色のアイリングがとてもかわいい小鳥ですね。「フイチイイ 〇体体イ」という鳴き声が「月・日・星」と聞こえたため「三光鳥」と名付けたとか。昔の人は想像力が豊かです。

ササゴイは、水辺で身をかがめ、不動の体勢から一瞬にして魚をとらえます。中には自ら疑似餌を巻いて魚を呼び寄せる個体もいるとか、なかなか見ることの出来る光景ではありません。手賀沼近辺で見られることは非常に稀で、手元の観測記録にも見当たりません。今回観察した人は極めて貴重な体験です。(98, 99年に各1件記録があり、**20**年振りの快挙!)

ヒメアマツバメも見ることが出来ました。腰が白くイワツバメに見えてしまうので、よく確認しないといけない鳥ですね。コシアカツバメも登場しています。子育ても終わり、ツバメやアマツバメ達は東南アジアへ移動を始めているようです。

本号から観察地「非公開」データの鳥だよりは掲載対象から外すことにしました。

- 5.21 【片山（手賀の丘公園）】 材刈(1) 住宅地の周辺で鳴く 鈴木静治
木に止る 船津登
- 5.21 【片山（手賀の丘公園）】 フカウ(1) 三樹荘のあたりでさえずっていました 岩本二郎
鳴き声 船津登
- 5.22 【中峠】 ホトギス(1) 6.02 【手賀沼辺】 トビ(2)
私にとっては初認です。 松本勝英 上沼 1 下沼 1 金子雅幸・船津登・桑森亮
- 5.23 【下沼田】 ヒバリ(2) 6.04 【柏の葉】 ヒメアマツバメ(4+)
水田の上空で囀る 鈴木静治 調整池の上空で採餌 吉田隆行
- 5.23 【千間橋】 セッカ(1) 6.04 【片山】 サシバ(1)
水田上を飛び囀る 鈴木静治 木に止る 船津登
- 5.23 【発作】 オオシクリ(10) 6.04 【片山（手賀の丘公園）】 材刈(1)
葦原で囀る 鈴木静治 林の中でキョキョと鳴く 船津登
- 5.23 【布佐】 ウグイス(1) 6.04 【片山（手賀の丘公園）】 ヤマガラ(3)
森で囀る 鈴木静治 船津登
- 5.24 【北新田】 カッコウ(1) 6.05 【柏下】 コシアカツバメ(1)
カラスに追われたていた 畠中暁美 休耕田で土を取っているように見えた 吉田隆行
- 5.25 【手賀新田】 チュウサギ(2) 6.06 【柏】 チョウゲンボウ(2)
水田で餌探し 鈴木静治 若鳥が商業施設の換気口から顔を出して いた 飯泉仁
- 5.25 【布佐】 イカル(1) 6.07 【発作】 チュウサギ(4)
森の中で囀る 鈴木静治 水田で餌探し 鈴木静治
- 5.25 【布瀬】 キビタビ(1) 6.08 【布瀬】 キビタビ(2)
森の中で鳴く 鈴木静治 森より囀り 鈴木静治
- 5.26 【江蔵地】 チョウゲンボウ(1) 6.08 【布瀬】 サシバ(1)
交通標識より飛び立つ 鈴木静治 森の高木の上に止まる 鈴木静治
- 5.26 【下沼田】 タマシギ(1) 6.12 【布佐平和台】 ヤマガラ(2)
田で鳴く 鈴木静治 電線に止まり地鳴き 鈴木静治
- 5.26 【古戸】 トビ(1) 6.13 【北新田】 モズ(1)
上空高く滑空 鈴木静治 北新田でモズが 1 羽まだ残っていた 畠中暁美
- 5.26 【古戸】 イソギ(1) 6.13 【北新田】 カッコウ(1)
水路より飛立ち田の畦に降る 鈴木静治 今年のカッコウが千葉県側で見られます 昨年 畠中暁美
- 5.27 【正蓮寺】 コトドリ(2) 6.13 【染井入新田】 材刈(9)
湿地内を鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子 葦原で囀る、1 羽建物のアンテナに止まる 鈴木静治
- 5.28 【杉村楚人冠記念館】 アオバズク(1) 6.13 【染井入新田】 トビ(1)
自宅でアオバズクの声の聴きました 岩本二郎 沼、水田上高く滑空 鈴木静治
- 5.30 【江蔵地】 モズ(1) 6.13 【染井入新田】 トビ(1)
高木の頂に止まる 鈴木静治 沼、水田上高く滑空 鈴木静治
- 6.01 【布佐平和台】 ホトギス(1)

- 6.14【片山（手賀の丘公園）】ウグイス(2)
さえずる 船津登
- 6.14【片山（手賀の丘公園）】ヒバリ(2)
竹杭、フェンスに止る 船津登
- 6.14【千間橋】チュウサギ(14)
水田で餌探し 鈴木静治
- 6.14【浅間橋】ヨシコイ(2)
中州から中州に飛ぶ 渡邊俊文
- 6.14【浅間橋】サコイ(1)
中州から対岸に飛ぶ 渡邊俊文
- 6.15【本町2丁目】イビトドリ(1)
市街地の中を移動 間野吉幸
- 6.16【片山新田】ノリ(1)
上空を飛翔し電柱に降り立つ
飯泉仁・飯泉久美子
- 6.17【布瀬】サコウチョウ(2)
よく茂った林より囀り 鈴木静治
- 6.18【片山（手賀の丘公園）】サコウチョウ(1)
鳴き声 船津登
- 6.18【北新田】ハブサ(1)
金谷堰近くでハトを追跡
佐藤さなえ・畠中暁美・松田幸保他7名
- 6.23【片山】サバ(2)
木に止る 船津登
- 6.24【布瀬】ヨシコイ(1)
中州でオオと鳴く 鈴木静治
- 6.28【北新田】カッコウ(2)
金谷堰近くの林で2羽の音が4回聞こえ
たとの情報 畠中暁美
- 6.29【布瀬】ヤマガラ(1)
森の木の梢に止まり鳴く 鈴木静治
- 6.30【中峠】ホトギス(1)
森の中より鳴き声 鈴木静治
- 7.01【布佐平和台】コトドリ(2)
調整池の水溜で餌探し 鈴木静治
- 7.02【片山（手賀の丘公園）】ヒバリ(1)
さえずる 船津登
- 7.04【若柴】バン(4)
成鳥1、雛3が葦原で餌を物色
飯泉仁・飯泉久美子

- 7.08【大井新田】チョウゲンボウ(1)
上空を飛翔 吉田隆行
- 7.08【大井新田先手賀沼】トビ(2)
上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.08【布瀬】ヨシコイ(1)
飛翔し移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.08【布瀬】サバ(1)
鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.15【北新田】カッコウ(1)
越流堤で声が 畠中暁美・他13名
- 7.15【北新田】ウグイス(5)
美しい声で囀る 畠中暁美・他13名
- 7.15【北新田】オヨシキリ(多数)
声は少し少なくなった
畠中暁美・他13名
- 7.15【正蓮寺】クサギ(2)
湿地で採餌 飯泉仁・飯泉久美子
- 7.15【正蓮寺】バン(4)
成鳥1、幼鳥3羽が池中央の草原で採餌
飯泉仁・飯泉久美子
- 7.15【北新田】チョウゲンボウ(4)
4羽でトビを追いかけていた 畠中暁美
- 7.18【布佐平和台】コトドリ(2)
親子が調整池の水溜で餌探し 鈴木静治
- 7.19【江蔵地】モズ(1)
林で鳴く 鈴木静治
- 7.19【江蔵地】チュウサギ(1)
水田の畦で餌探し 鈴木静治
- 7.20【染井入新田】セッカ(1)
田の上を囀りながら飛ぶ 鈴木静治

■今回寄せられた鳥の全種名■

アオサギ、アオバズク、アマサギ、イカル、
イソシギ、イソヒヨドリ、イワツバメ、ウ
グイス、エナガ、オオタカ、オオバン、オ
オヨシキリ、オナガ、カイツブリ、カケス、
カッコウ、カルガモ、カワウ、カワセミ、
カワラヒワ、キアシシギ、キジ、キジバト、
キビタキ、キョウジョシギ、クサシギ、ゴ
イサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コシア

カツバメ、コチドリ、コブハクチョウ、ササゴイ、サシバ、サンコウチョウ、シジュウカラ、スズメ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、タマシギ、チュウサギ、チュウシャクシギ、チョウゲンボウ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、バン、ヒバリ、ヒメアマツバメ、ヒヨドリ、フクロウ、ホオジロ、ホトトギス、ムクドリ、ムナグロ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ヨシゴイ 計 66 種
 <番外種>カワラバト、コジュケイ

■今回の投稿者の総投稿件数■	
飯泉仁	261
飯泉仁・飯泉久美子	124
岩本二郎	6
金子雅幸・船津登・桑森亮	25
古出洋子	3
佐藤さなえ・畠中暁美・	
松田幸保 他 7 名	26
鈴木静治	297
鈴木静治・間野吉幸・池田日出男・	
金子雅幸・千葉洋・古出洋子	16
鈴木静治・間野吉幸・池田日出男・	
古出洋子・嶋崎省	14
畠中暁美	13
畠中暁美 他 13 名	26
船津登	114
間野吉幸	11
松田幸保	2
松本勝英	1
吉田隆行	17
渡邊俊文	3
<hr/>	
総計	959

(弘實和昭)

会からのお知らせ

<7月役員会議の結果>

1. 遠出探鳥会が中止になった際の下見費用等の取り扱いについて
 7月8日開催の役員会において下記の通り決定されました。

記

遠出探鳥会が天候その他止むを得ない理由により中止になった際の当該探鳥会の下見費用等については、原則として次の通り取り扱う。

【日帰り探鳥会の場合】

- (1) 下見費用相当額として、次の金額を会の費用から支払う。
 ①高速道路を利用した場合 300円×参加予定者数
 ②一般道路のみ利用の場合 200円×参加予定者数

【宿泊探鳥会の場合】

- (1) 下見実費相当額(※)、中止に伴う各種キャンセル料(宿泊、貸切バス利用等)を参加予定者が負担し、担当幹事が一人当たりの負担額を決定する。

*下見実費相当額とは次の①～③の合計額をいう。

①交通費実費

②入場料等の諸費実費

③宿泊代（通常料金で追加飲食費は除く）の半額

(2) 止むを得ない理由により探鳥会が中止になった際は、下見費用とキャンセル料の負担が発生することがある旨、探鳥会の案内の際に明記する。

2. 探鳥会等での車提供料及び下見代に係る費用負担について

本件については、平成27年7月発行の会報245号に掲載の「お知らせ」を再周知するものです。

項 目	内 容
手賀沼 定例探鳥会	同乗者は、車提供料として100円/人を運転者に支払います。 なお、対象となるのは会員のみで、非会員と子供は無料です。
手賀沼 定点カウント	会の予算より、車提供料として300円/日を運転者に支払います。
日帰り探鳥会 下見代	下見を実施した際には、参加者は原則として200円/人を担当幹事に支払います。公共交通機関を利用する場合も同様とします。 但し、バス等を利用する場合は、交通費実費、入場料等の諸費を参加費に含め参加者が負担します。
宿泊探鳥会 下見代	交通費実費、入場料等の諸費、宿泊代（通常料金で追加飲食費は除く）の半額相当を参加費に含め参加者が負担します。

<お断り>

「会員だより」は、紙面の都合により、割愛しました。

<新入会員紹介>

斉藤恵美子（我孫子市在住）

渋谷武子・惣一郎・ナミ（我孫子市在住）

久松典子（白井市在住）

<ご寄付>

肥後邦彦さんよりご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

ほーほーどり No. 264 (2018年9～10月号)

発行 2018年9月1日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、千葉洋、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台2-15-17 桑森亮 Tel: 04-7182-3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円（大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料）